

国指定重要文化財旧山邑家住宅の保存修理工事について

1 建物の概要

国指定重要文化財旧山邑家住宅（淀川製鋼迎賓館）は、「櫻正宗」の銘柄で知られる灘の酒造家 8 代目山邑太左衛門が建てた別邸である。帝国ホテル建設のため来日していた、近代建築の三大巨匠のひとりであるフランク・ロイド・ライトが大正 7 年に設計した。

ライトが大正 11 年に帰国した後、彼の弟子である遠藤新と南信が実施設計と施工管理を行い、大正 12 年によろやく着工し、大正 13 年に竣工した。

その後、昭和 22 年には株式会社淀川製鋼所の所有となり、社長邸、独身寮などとして利用された。しかし、老朽化により解体される計画が起こり、保存運動等を経て、昭和 49 年 5 月 21 日には国指定重要文化財に指定された。

指定後、昭和 56 年には調査工事、昭和 60～63 年には保存修理工事が実施され、平成元年からヨドコウ迎賓館として一般公開されている。

しかし、平成 7 年の阪神・淡路大震災により被災し、平成 7～9 年度まで災害復旧工事が行われた。その後、一般公開が再開されたが、災害復旧工事から 15 年以上が経過し、雨漏りなどが生じていることから、防水改修工事をはじめ、修理・修復の保存修理工事を平成 28～30 年度までの 3 か年計画で実施することとなっている。

2 事業名

重要文化財旧山邑家住宅（淀川製鋼迎賓館）近代化遺産等重点保存修理事業
（国宝重要文化財等保存整備費補助金）

3 所有者

株式会社 淀川製鋼所

4 工事の概要

防水改修工等、擬石飾り修理、大谷石修理など。

5 事業費負担割合

総事業費の内、国が 1 / 2，県が 1 / 6，市が 1 / 6 を補助し，所有者が 1 / 6 を負担する。

6 その他

淀川製鋼所は、平成 29 年度に保存活用計画を策定し、平成 30 年度に文化財建造物等活用地域活性化事業として階段手すりの設置や空調設備の充実、ライトアップ設備の設置、樹木など周辺環境の整備などを実施する予定である。



国指定重要文化財
旧山邑家住宅（淀川製鋼迎賓館）



2 工事素屋根設置状況



3 4階テラス
防水材撤去後



4 屋根 擬石飾り石



2 屋根 擬石飾り石
修理状況



3 バルコニー大谷石
取り外し状況